

令和5年 4月 図書館だより

天理高校図書館

新学期が始まりました！！

★天理高校図書館は毎月「図書館だより」と「新着図書紹介」を発行しています。「図書館だより」では季節にあわせた特集や、話題の本を紹介しています。毎月届く新着図書はみなさんからのリクエスト本もたくさん含まれています。紹介された本はすべて図書館に置いていますので、気になった本があれば、ぜひ図書館に来て、手に取ってください。どこにあるかわからない時は、遠慮なく尋ねてください。(*^_^*)

★「図書委員からのおすすめ本」特集を実施しています。昨年度の図書委員さんが、ぜひ読んでほしいと選んでくれた本と手書きのポップを展示中です。また、今回は本の中から「ワタシの一行」を選んでもらいました。

★「先生方からのおすすめ本」 今月は、数学科 辻本先生からのおすすめ本です。

★図書館は月～金は **8時30分から19時まで** 土は **14時まで** 開館しています。休み時間も開館していますので、ちょっとした隙間時間もご利用いただけます。

「図書委員からのおすすめ本」

『今夜、世界からこの恋が消えても』

一条 岬 KADOKAWA

恋愛小説だけど、お互いが抱えていることがあって、切ない部分が多いと思います。日々の時間や一瞬、一瞬をもっと大切にしようと思えました。

「じゃあ、記憶障害について僕に話したことは、書かないで置いてくれ。それとあわせて、僕が君を好きになってることも」(86p11)

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見 夏衛 スターツ出版

今の日本は戦争もなく、とても平和だけれど、少し前は戦争があり、命の危険にさらされていた。今後、戦争を知らない若い人々が増えてきて、戦争という辛い過去を知るという機会が少なくなってしまうので、この本をきっかけに戦争について考えてほしい。

「あの空に俺は散る。君のために、君という花が咲く。この世界のために、君の幸せだけを願っている。君の笑顔が輝き続けることを」(213p)

『人は話し方が9割』

永松 茂久 すばる舎

タイトルから話すことに意識が向きがちですが、一番大事なのは「聞くこと」とであると書かれています。人は基本的に自分の話を聞いてほしい、肯定してほしいと思っているので、聞くことが楽しい会話につながるということを知ることができました。話すことが苦手な人でも、うまく話せる方法が紹介されています。スキルがあまりなくてもちょっとしたコツで変わっていきます。上手に話す方法ばかり考えていた私にたくさんの気づきを与えてくれました。



春休み期間に、本を借りた人は、返却するか、貸出を延長しにきてください。ご協力お願いします。



『また、同じ夢を見ていた』 住野 よる 双葉社



主人公の奈ノ花ちゃんが「幸せとは何か」ということで考えていく中で3人の女性と出会い物語が進んでいきます。そして、物語が進むにつれて、3人の秘密や正体があかされていくのがとてもドキドキして面白いです。

「人は悲しい思い出をなくすことは出来ないの。でも、それよりたくさんのいい思い出を作って楽しく生きることは出来る」

「先生方からのおすすめ本」

『永遠のおでかけ』 益田ミリ 毎日新聞出版



益田ミリさんのコミックは読んだことがあり、作品から感じられる優しさや、切なさはとても私には心地よい作品ばかりで、いわゆる「推し作家」でした。今回、エッセイを読むのは初めてでしたが、心に深く残る作品になりました。なぜこの作品を手にとることになったのか。それはNHKプロフェッショナルで取り上げられた「いわた書店」の「一万円選書」から送られてきた本だったからです。「一万円選書」の説明は、また、ネットで調べていただければ詳しく書かれています。

私のために「いわた書店」さんが選んでくださった本です。自分では、選ばないなあと思いましたが、最初の話を読むと、心にぴたっとハマリ、どんどん読み進めてしまいました。益田さんと家族との交流、実父との別れ、そしてその後の日々の様子が書かれています。「私も同じ思いだった。同じように後悔し、今でも悔やんでいる。」という思いが次々にあふれてきました。けれど、読了した後、不思議と落ち込むことなく、心地よい穏やかな気持ちになりました。私一人だけじゃないんだ、みんな同じ思いなんだという安心感でしょうか。これが、読書の良さだなあと実感しました。(図書館 水野)

『夢をかなえるゾウ』 水野 敬也 飛鳥新社

2007年に単行本が発売され、大ヒットとなった作品です。ドラマやアニメにもなったので、タイトルに聞き覚えのある方も多いでしょう？

ダメダメな主人公の前に突然現れたゾウの神様「ガネーシャ」。彼はニュートン、孔子、ナポレオン、最近ではビル・ゲイツなど、たくさんの偉人を育ててきたといいます。「お前なあ、このままやと2000%成功でけへんで。」と言われ、彼の教えを乞う事に。「靴をみがけ」「募金をしろ」など、一見するとこんな事で成功するのかなと思うのですが、実は生きていく上で、最も大切な事を教えてくれていたのです。関西弁のガネーシャの言葉にクスッと笑ってしまいます。短いストーリーで読みやすく、不思議と頭に残って、実践したくなります。これまで、読書にハマってない人にこそ、読んでほしい本です。(数学科 辻本先生)

